

地域づくりのあり方検討会 (第6回)

中央生涯教育センター 地域づくり推進室

【地域づくりのあり方検討会中間報告】

意見

=委員からの意見=

- ・地域ごとの「暮らしのものさし」を、地域で話し合う事が大事。
- ・価値観が多様化する中、変化にあわせた地域づくりが必要。
- ・役場や大学の先生ではなく、自分たちで地域について考えるべき。
- ・「なぜ、今のままでいけないのか?」「今変わらないと、将来どうなるのか?」を一人一人が考えることが重要。
- ・自治会という組織が本当に必要なかを考えるべき。
- ・行政は「地域にやらせる」を繰り返し都合よく使って来たのでは?
- ・役場としても「自治会の役割」を考えるべきでは?
- ・転入前の自治会は、ごみ処理、共同駐車場の管理など、暮らしの最低限の互助の部分を持っていて、金ヶ崎町はイベントや組織が多すぎてと感じている。
- ・自治会や老人クラブなどによるボランティアは限界が来ている。
- ・自治会長だけでなく、地域を変えようとする仲間作りが必要。
- ・会長や役員が一定程度の年数をやる仕組みが必要
- ・総会は年配の方が中心だが、次を担う若い人の意見を大事にしたい。
- ・農業の世界も、40歳代・50歳代が中心に将来を考える必要がある。
- ・自治会行事の参加者は、同じ顔ぶれで40年間変わっていない。
- ・若い世代も自治会などの地域活動に興味を持つ必要がある。
- ・若い世代も忙しく、今の仕組みでは地域の事までできない。
- ・若い世代に住んでもらうためには、若い人の価値観を認める地域側の変化が必要。
- ・社会問題などを考える「若者会議」のように若者同士で話し合う場を作りたい。
- ・今の自治会の総会、役員会の仕組みでは若い世代は参加しにくい。仕組みを変えていかないといけない。
- ・地区センターや役場の行事が多く、地域の事を考える時間がない。
- ・世帯数が少ない自治会では、出来る事の限界がある。他の地域との連携も考えなければならぬ。
- ・自治会長と行政区長の兼務は見直すべき。
- ・自治会長になると年間200回を超える仕事。このままでは手が届かない。
- ・自治会長になる、目赤などの役割に自動的になる仕組みはおかしいのでは?
- ・「イベントに7人参加して下さい」と文書があるが、動員ではないのか?広報にも記事を書いていなければ文書は不要。魅力があれば参加する。
- ・学校の組織も増えたが違いが分からない。役場の行事、各種団体の行事も含めて全体の整理が必要。
- ・様々な団体があるが、今の時代にこのくらいの肩書がほしいのか疑問である。
- ・高齢者の独り暮らしが増え、誰がどの程度支えるのか考える必要がある。
- ・幼稚園の統合の話もあるが、地域と子ども達の関係性も考えないといけない。

=ヒアリング結果などによる意見=

- ・区長報酬が周辺の自治体より安い。区長報酬分は地域活性化委員会への補助金に回したと説明されたが、活性化委員会が地域に必要なのか?
- ・自治会への補助金は一律5万円となっているが、人口等の補助率にすべきでは?
- ・自治会の負担が大きいのではなく、自治会長個人の負担が大きい。
- ・自治会の運動会は人が集まるが、自治会連合会の運動会が集まらない。
- ・自治会では人口が少なくて行事ができないので、自治会連合会の運動会は必要。
- ・自治会の運動会をやめて、軽スポーツ交流会に変えたい。
- ・地区センターと自治会連合会の事業の区別が曖昧。
- ・これまでの「食べた、飲んだ」の地域づくり、生涯教育から課題解決型の地域づくり、生涯教育に変えるべきで、地区センターの役割も見直しが重要。
- ・若者などの人材育成は、中央センターや地区センターで取り組めないか?
- ・具体的にどの行事をやめるのかという議論が必要。
- ・これからの大きな課題は高齢者対策。見守りや交通対策、買い物支援などが必要だが、誰がどこまでやればいいのか分からないし、専門性もない。
- ・ゲリラ豪雨や土砂災害などへの対応が必要で、防災訓練を定期的に実施したい。
- ・自治会長と民生委員の連携はこれからは必要になってくると思う。
- ・小学生、中学生を地域でどう育てていくかを考えていかないといけない。
- ・役場内部の連携を進めてほしい。負担を減らす必要があると中央センターが言っても、他の課から動員の文書が来ている。

方向性

- 自治会の役割を考える**
現在の地域課題や住民の価値観の多様化などの現状を踏まえ、これからの自治会の役割について検討する。
- 様々な世代の参加を進める**
将来に責任を持つ、若い世代や女性の声を反映するための仕組みや支援の有り方考える。
- 自治会の省力化を考える**
人口減少や高齢化、価値観の多様化など、時代が変化する中で、自治会行事や組織機構、各種団体の目的を再点検し、身の丈に併せた自治会の省力化を進める。
- 自治会連合会・地区センターの役割を考える**
自治会の人口規模や地域課題が異なる中で、自治会連合会や地区生涯教育センター事業が負担になっている地域から、自治会連合会や地区生涯教育センターの役割の見直しを進める。

具体案

- | 自治会 | 役場 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自治会の役割について、地域内で話し合う機運を盛り上げる。 ・より多くの住民の声を聞き、本来の自治会の役割について話し合う場を設ける。 ・必要に応じて具体的な活動の見直しに着手する。 ・若い世代や女性の声を反映できるよう、総会や行事の開催方法等の見直しを行う。 ・それぞれの世代の育ってきた時代背景や多様化する価値観を理解し合える地域を目指す。 ・次世代を育てる視点で、自治会に限らず、若い世代が主体的に関われる機会を創出する。 ・地域で負担になっている事業、見直しが必要とされている自治会は、それぞれの地域の身の丈に併せた見直しを進める。 ・これまで実施してきた事業の中から、自分たちの体力に応じて、真に大切な地域の暮らしを守るための事業を、さらに選択する機会を作る。 ・行事を減らすため、地域全体で不要な行事を整理する機会を設け、役場や各種団体が主催する行事等については、地域からも提案を行う。 ・人口格差の拡大や価値観、地域課題が多様化する中で自治会連合会の役割の見直し、自治会連携について検討する。 ・人口減少等により、単独の自治会で出来ない事、他の自治会と助け合う事で効果的に取り組める事業は地区センターを活用して話し合いの機会を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・行政主導で整備してきた自治会や各種団体の全体的な整理と自治会の役割について整理する。 ・地域が話し合いを行うための学習機会や話し合いの支援を行う。 ・地域が課題解決等に取り組む際の学習機会や経済的支援の仕組みを作る。 ・役場や地区生涯教育センターにおいて若い世代を対象とした場づくりや、団体育成の機会を設ける。 ・様々な年代を交えた話し合いの場や情報発信の機会を設ける。 ・自治会に限らず、若者や女性が活動しやすいように、学習機会や、経済的支援の仕組みを作る。 ・区長配布の削減、自治会長と行政区長の兼務の見直しを行うとともに、各種委員会の委員は自治会長に限定せず、意見を求める方法を検討する。 ・多くの自治会からイベントの動員等に対する自薦要請がある中、役場全体の方向性を整理する。 ・各課が主管する各種団体、各種団体が実施する行事等は、全町一律の制度から、課題に応じて各自治会が柔軟に選択できる仕組みに改善する。 ・役場以外の様々な団体との調整の場を設け、金ヶ崎町全体の省力化を進める。 ・自治会連合会と地区生涯教育センターの共催事業について、主催と共催を明確に整理する。 ・地域づくりや人づくりに対し、社会教育(生涯教育センター)の事業や役割を見直す。 ・地域協働補助金、地域活性化委員会、自治会補助金の有り方について、目的や公平性などの観点から整理を行う。 ・地域課題が増加する中、地域で課題を解決するための相談機能としての地区生涯教育センターの役割について検討する。 |

2 今年度の進め方

第5回（H30.5.30）

- 地域の「層」毎に発生が予想される課題を検討

第6回（H30.7月頃）

- 地域の課題解決、目指すべき未来に向けた取組を検討

第7回（H30.9月頃）

- 地域の課題解決、目指すべき未来に向けた仕組みを検討

第8回（H30.10月頃）

- 報告書のまとめ

3

今後の地域づくりの方向性

- 5回にわたる地域づくりのあり方検討会の実施
- 西部地区、北部地区における住民アンケートの実施
- 街地区、北部地区、永岡地区での自治会長ヒアリング及び各種事業実態調査
- 単位自治会での地域づくりに対する話し合いの実施
- 関係部署や各種団体との意見交換

4

今後の地域づくりの方向性

1 目指すべき地域づくりのあり方

第十次金ヶ崎町総合発展計画

《将来像》

人と地域が支えあうまち 金ヶ崎

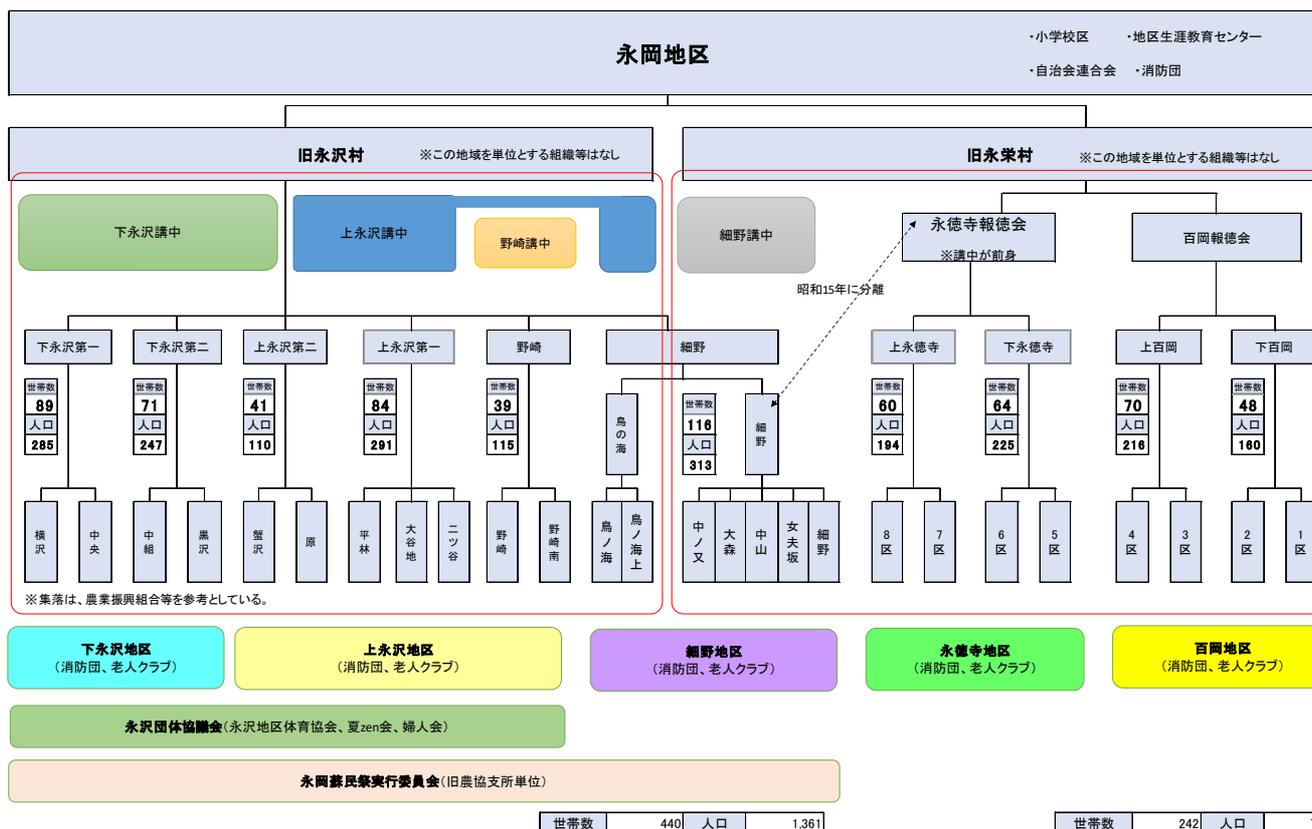
～連携と協働のもと、

今もこれからも住みたい町、住んで良かったといえる町

の実現～

今後の地域づくりの方向性

2 私たちが生活する上での地域の範囲



今後の地域づくりの方向性

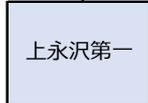
《行政区より大きな範囲》



世帯数
164

行政 その他	・消防団 ・老人クラブ ・子ども会 ・民生委員児童委員 ・永岡地区運動会（球技大会）
自治	

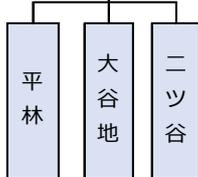
《行政区》



世帯数
84

行政 その他	・各種行政委員 (公衆衛生組合、防犯協会、納税貯蓄組合、交通事故撲滅推進員など) ・リサイクルステーション ・募金
自治	・総会

《集落》



行政 その他	・集落営農 ・ゴミステーション
自治	・公民館（集会所） ・水路維持 ・高齢者サロン（一部集落）・新年会 ・各種行事慰労会 ・敬老会（準備、余興） ・永沢地区運動会

《班》



行政 その他	—
自治	・除雪 ・農作業 ・日常支援（買い物、通院等） ・見守り ・葬儀 ・災害時助け合い

今後の地域づくりの方向性

3 地域の現状と課題

《班や集落から行政区の範囲》

(1) 暮らしやすい地域づくり（安全・安心）

- ① **自然災害や緊急時の助け合い、防災体制**
 - 消防団員の減少や部の再編などによる消防団以外の自主防災組織の設置
 - 防災訓練等の実施
- ② **自宅や共有地などの除排雪や草刈り**
 - 各家庭や親せき・隣近所での助け合いの限界
 - 高齢者のみ世帯の増加による共有地の草刈りなどの地域活動への対応
- ③ **高齢者の見守り**
 - 高齢者のみ世帯の増加と支援者自身の高齢化
 - 個人情報や支援される側のうしろめたさ
- ④ **高齢者の買い物・通院等の支援**
 - 高齢者のみ世帯の増加と支援者自身の高齢化
 - 事故を起こした場合の利用者や利用者家族への申し訳なさ

今後の地域づくりの方向性

3 地域の現状と課題

《班や集落から行政区の範囲》

(2) 人口減少や価値観の変化に併せた地域づくり

① 高齢化・人口減少に対応した行事の見直し

- 高齢化・人口減少中での行事の継続あるいは追加による負担増加
- 介護や子育てなどの各家庭の負担の増加
- 「苦勞することで成長する」という年長者のプレッシャー

② 勤務形態や生活環境の変化に対応した自治会活動

- 夜勤型の勤務が多いことによる自治会活動の制約
- 個人や家族、友人との時間を大切にしたいという価値観のなかで、自治会活動を負担と感じる住民の増加

③ 地域との交流と個人の尊重が両立できる地域づくり

- 運動会や各種イベントなど、過度な交流事業に負担と感じる住民の増加

9

今後の地域づくりの方向性

3 地域の現状と課題

《班や集落から行政区の範囲》

(3) 若い世代や子どもたちが希望や誇りがもてる地域づくり

① 次世代が主体的に活動できる環境

- 50歳代以下の急激な減少による地域活動の高齢化
- 定年延長等による地域活動に参加する年齢の高齢化
- 男性中心の自治会運営、50歳代から60歳代の声が反映されにくい自治会運営

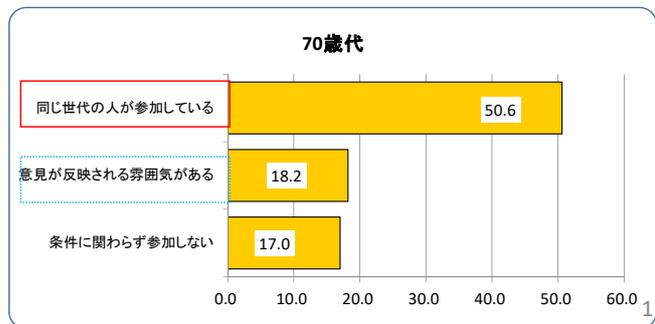
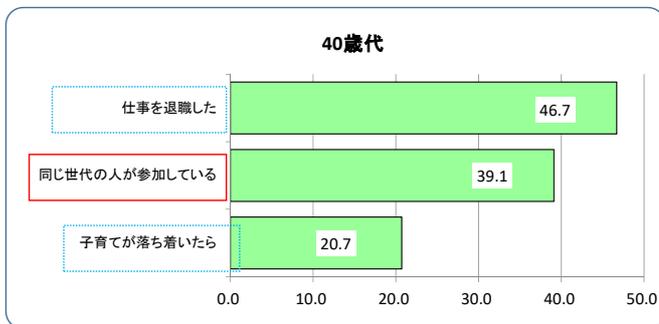
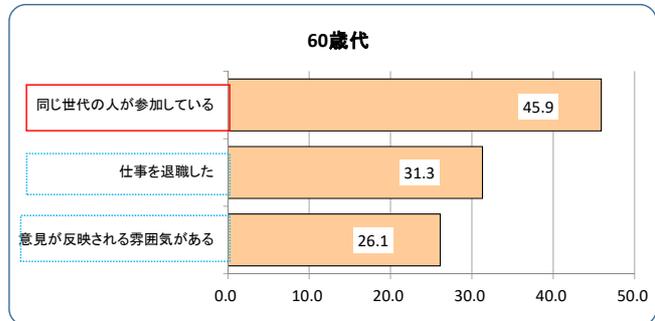
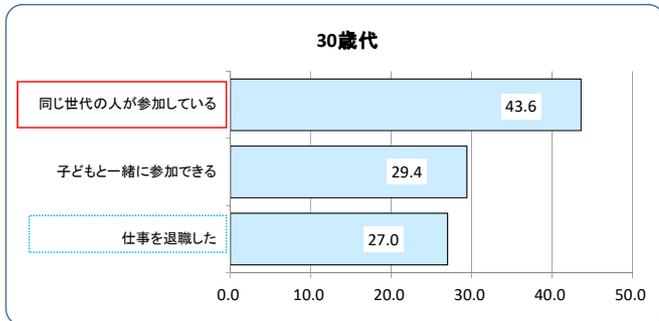
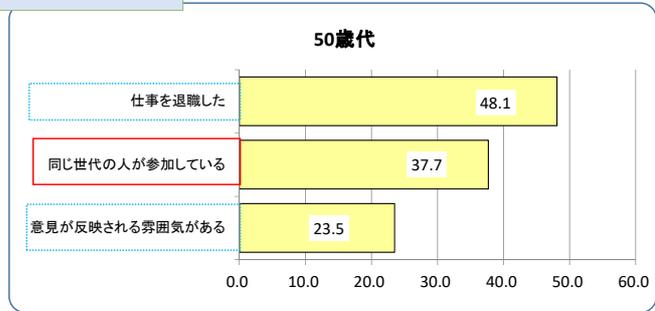
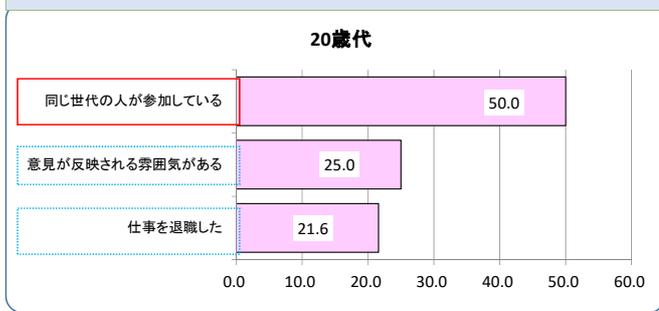
② 地域の文化や地域活動の継承

- 30歳代から40歳代の地域活動への参加が少ない
- 指導者の高齢化と担い手の偏りにより継承されにくい環境

③ 子どもたちの愛着の低下

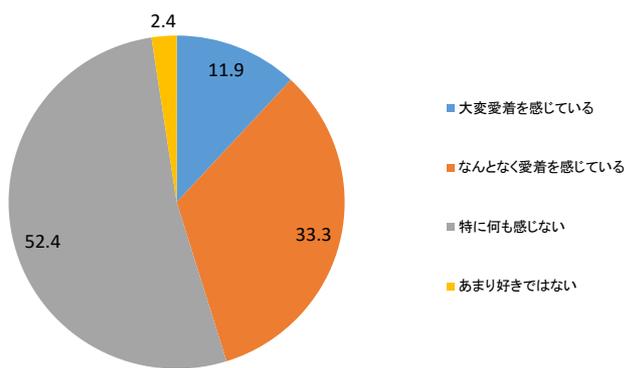
- 進学とともに薄れる地域への愛着
- 学校活動や校外活動の増加、魅力のない地域活動等による地域との関わりの減少

10



4. 調査結果（18歳以下）

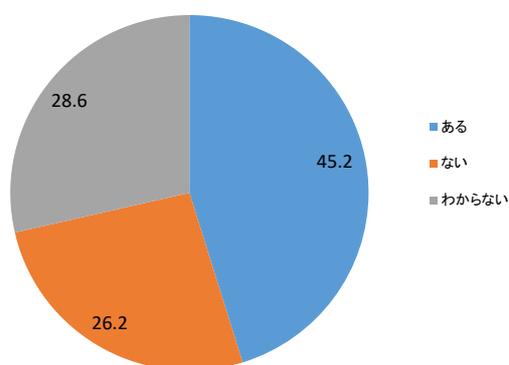
①地域への愛着



「回答状況」

➤回収率 46.7%
(対象者 90人 回答者 42人)

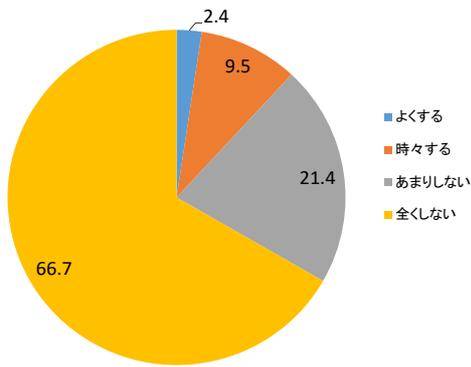
②地域での思い出



「主な回答」

- 金ケ崎町の夏祭り … 2人
- 子ども会 … 3人
- 町の運動会 … 2人
- 自治会の運動会 … 2人
- 百万遍 … 1人
- 地域行事 … 2人
- サッカー … 1人
- 厳しい冬 … 1人

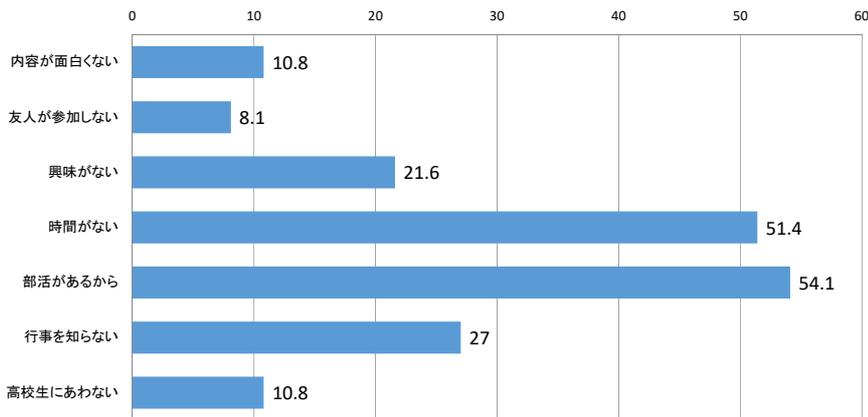
③地域行事への参加状況



《地域でしてみたいこと》

- 若者中心に盆踊り等の企画・運営
- 地域行事の維持
- ボーリング大会
- 現状で満足

《地域行事に参加しない理由》



13

今後の地域づくりの方向性

3 地域の現状と課題

《班や集落から行政区の範囲》

(4) 役場や各種団体の役割や事業が地域の暮らしに直結する地域づくりの支援

①自治会役員への過度な負担

- 年間活動回数が200回を超えるなど、過度な自治会長への負担
- 役場が主催する行事への動員、事業内容への疑問
- 行政区長と自治会長の兼務を行った際に約束された区長配布の削減等の未達成や区長報酬削減に対する不満

②地域が多用する中で、地域の現状に合わない支援制度

- 人口規模が100人から1,000人と格差が拡大する中で、平等であるが公平でなくなっている様々な制度

③イベント型・活性化型の地域づくりへの負担

- 平成18年度前後に役場が主導した地域づくり計画に対するやらされ感や負担
- 高齢化、人口減少する中で地域課題とあわない地域づくりによる疲労

14

3 地域の現状と課題

《行政区から小学校区・地区生涯教育センターの範囲》

(1) より身近な地域で出来ないことを補い合う地域づくり

① 行政区間の平等な役割分担による負担増加

➢ 自治会連合会や地区生涯教育センターが主催する様々な行事に対し、各行政区が平等な役割分担となっているが、人口減少等により公平でなくなったことによる特定の行政区の負担が増加

2 行政区毎の人口

	行政区	総人口	65歳以上人口	高齢化率	生産年齢人口	75歳以上人口	85歳以上人口	生産年齢 /75歳以上人口	生産年齢 /85歳以上人口
1	城内	303	127	41.91%	151	71	28	2.13	5.39
2	矢来	361	103	28.53%	192	66	19	2.91	10.11
3	町上	152	78	51.32%	66	43	14	1.53	4.71
4	南町	264	84	31.82%	156	48	16	3.25	9.75
38	栄町	256	98	38.28%	141	54	21	2.61	6.71
39	町下	113	61	53.98%	47	38	13	1.24	3.62
43	諏訪小路	134	49	36.57%	75	34	8	2.21	9.38
44	檀原	314	103	32.80%	177	61	20	2.90	8.85
45	一の台	475	164	34.53%	240	85	22	2.82	10.91
46	荒巻	540	138	25.56%	351	61	16	5.75	21.94
5	谷地上	525	113	21.52%	344	66	22	5.21	15.64
6	谷地下	1,175	180	15.32%	764	91	30	8.40	25.47
7	横道上	858	147	17.13%	540	74	22	7.30	24.55
8	横道下	723	145	20.06%	461	99	48	4.66	9.60
9	藤巻	265	83	31.32%	147	50	17	2.94	8.65
10	御免	236	68	28.81%	130	39	14	3.33	9.29
47	高谷野	263	79	30.04%	150	41	18	3.66	8.33
50	田園パーク	425	34	8.00%	347	17	5	20.41	69.40
11	川目	351	144	41.03%	177	90	25	1.97	7.08
12	和光	314	98	31.21%	164	70	44	2.34	3.73
13	高谷野原	165	74	44.85%	76	35	12	2.17	6.33
14	千貫石	159	59	37.11%	80	34	15	2.35	5.33
15	長志田	200	93	46.50%	102	60	20	1.70	5.10

	行政区	総人口	65歳以上人口	高齢化率	生産年齢人口	75歳以上人口	85歳以上人口	生産年齢 /75歳以上人口	生産年齢 /85歳以上人口
19	瘤木	955	197	20.63%	605	107	30	5.65	20.17
20	中村	250	93	37.20%	130	55	20	2.36	6.50
21	清水端	756	245	32.41%	416	131	40	3.18	10.40
22	下百岡	156	61	39.10%	79	40	8	1.98	9.88
23	上百岡	209	79	37.80%	115	47	13	2.45	8.85
24	下永徳寺	234	85	36.32%	113	53	23	2.13	4.91
25	上永徳寺	196	73	37.24%	105	34	17	3.09	6.18
26	細野	320	122	38.13%	173	69	28	2.51	6.18
27	野崎	117	48	41.03%	64	29	12	2.21	5.33
28	上永沢第一	297	114	38.38%	156	65	17	2.40	9.18
29	上永沢第二	117	54	46.15%	54	37	18	1.46	3.00
30	下永沢第一	294	111	37.76%	161	63	23	2.56	7.00
31	下永沢第二	255	97	38.04%	118	48	20	2.46	5.90
16	遠谷巾	191	86	45.03%	96	47	10	2.04	9.60
17	上平沢	410	78	19.02%	244	47	10	5.19	24.40
18	下平沢	679	112	16.49%	503	68	20	7.40	25.15
32	東町	568	178	31.34%	324	94	19	3.45	17.05
33	二の町	179	73	40.78%	89	38	19	2.34	4.68
34	上の町	180	58	32.22%	110	41	17	2.68	6.47
35	二日町	164	34	20.73%	118	21	8	5.62	14.75
36	穴持	117	46	39.32%	57	31	9	1.84	6.33
37	ニッ森	165	71	43.03%	81	42	14	1.93	5.79
40	金森	165	65	39.39%	83	35	18	2.37	4.61
49	改断	305	71	23.28%	193	35	11	5.51	17.55
		15,850	4,573	28.85%	9,265	2,604	893	3.56	10.38

※住民基本台帳登録人口（平成29年3月31日現在）

今後の地域づくりの方向性

4 将来的に発生が予想される課題

（1）高齢化や人口減少によるこれまでの仕組みの変化

①世帯数の減少による地域活動の枠組みの変化

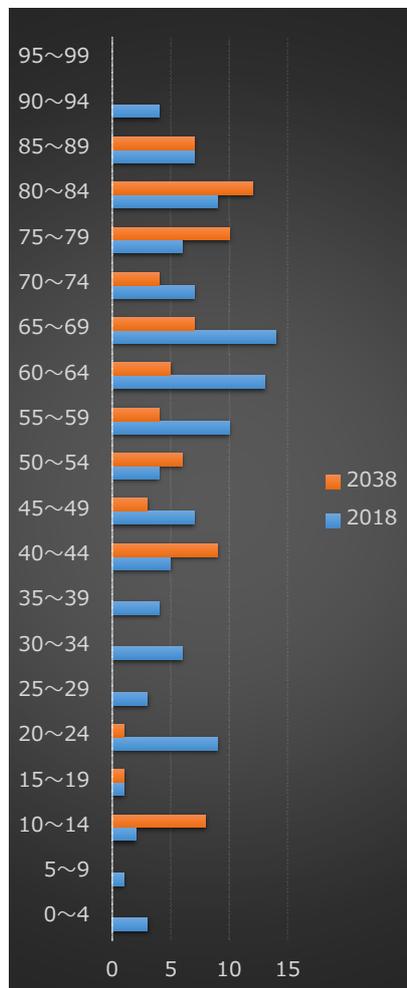
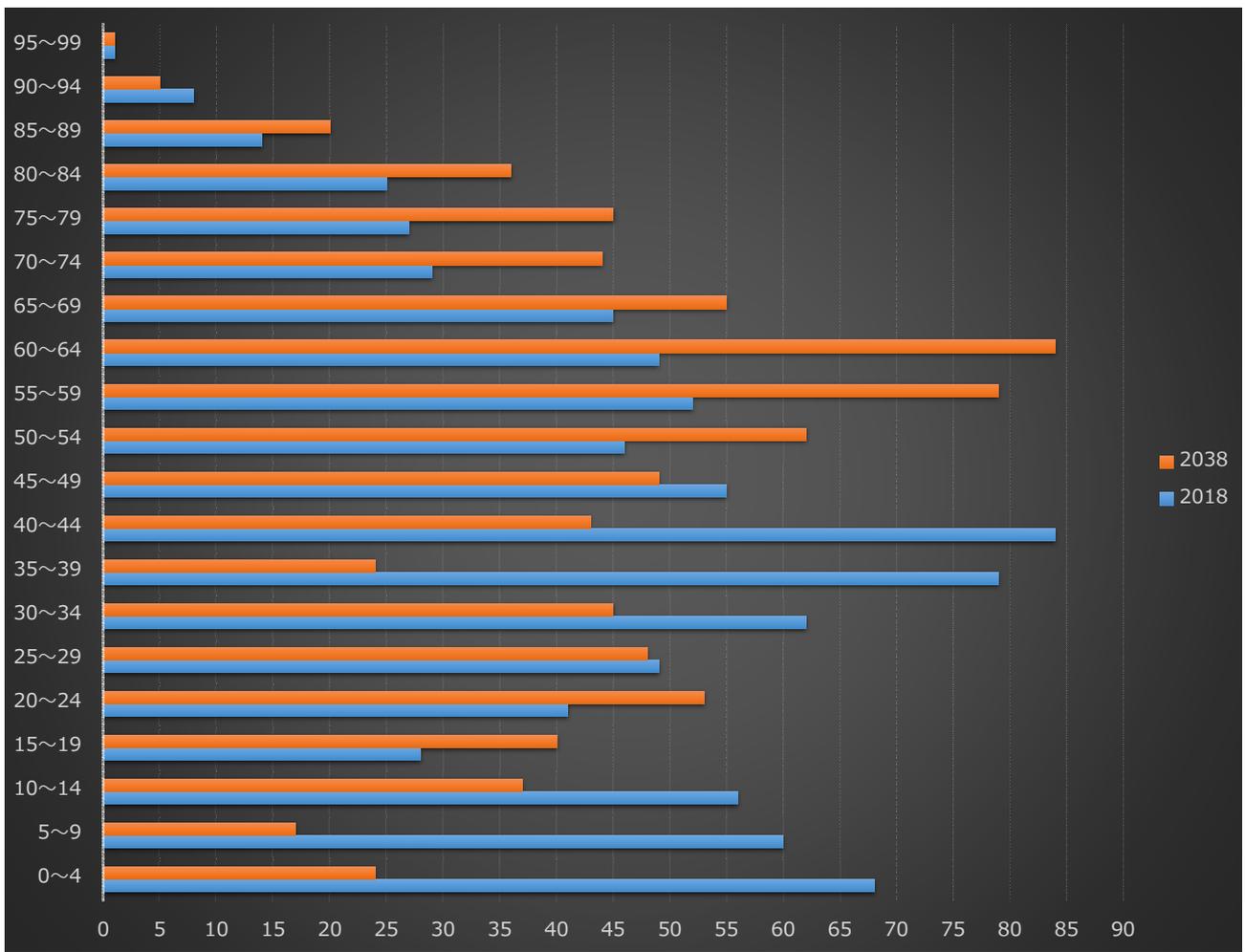
- 集落単位で行われてきた行事（馬鋤洗など）の他の地域との統合
- 集会所管理に係る一人当たり費用の増加

②高齢化等により各世帯が平等に役割を担う仕組みの変化

- 自治会役員や班長などの輪番制の機能不全
- 共有地の草刈りなどの世帯ごとの平等な役割分担の機能不全

③人口減少による空き家対策や農地対策などの新たな課題への対応

- 空き家の増加による景観悪化や防犯対策
- 耕作放棄地の増加による病害虫の発生
- シルバー人材センター等によるサービス提供の不足



今後の地域づくりの方向性

4 将来的に発生が予想される課題

(2) 課題の増加や価値感の多様化等に対応した地域活動への変化

①自治会が担うべき役割への疑問の拡大

- 現在の自治会活動に対する疑問の増加から脱退を検討する住民の増加
- 過度な交流事業に対する負担感の増加

②自治会が地域課題に対応することの限界

- 各種団体等の廃止、統合、機能縮小等による自治会の役割の増加
- 高齢者福祉などの専門性の高い課題に対する自治会としての対応の限界

21

今後の地域づくりの方向性

5 地域づくりに対する行政側の課題

- 5回にわたる地域づくりのあり方検討会の実施
- 西部地区、北部地区における住民アンケートの実施
- 街地区、北部地区、永岡地区での自治会長ヒアリング及び各種事業実態調査
- 単位自治会での地域づくりに対する話し合いの実施
- 関係部署や各種団体との意見交換



- 地域の課題はわかっているが、自治会がどこまでやればよいのか不安
- 行政自体がいまだにイベント型・地域活性化型の事業が多く、言っていることとやっていることが違う

行政がどこまでやるのか示すべき

22

5 地域づくりに対する行政側の課題

(1) 地域の現状に対する行政施策の課題の整理

① やらされ感のある地域協働の見直し

- 公園の維持管理や町道の草刈りなど、地域協働ということで協力してきたことに対する現状把握ができていない
- イベント型・活性化型の地域づくり計画の策定を主導してきたことに対する評価や住民への説明ができていない
- 地域協働について行政が一方的に決めてきたようにみうけられ、役場職員の認識も統一されていない

② 各種行事な様々な委員、団体等の見直し

- 役場から委嘱される各種委員について、目的を達成された団体や事業目的が明確になっていない事業が多い
- 文化やスポーツ、福祉活動などの様々な団体も多くの課題を抱える中で、課題の把握や団体が担えなくなる可能性がある活動への対応が十分でない

5 地域づくりに対する行政側の課題

(2) 地域の現状に併せた行政施策への転換

① 各分野を横断する地域の現状に併せた行政施策への転換

- 地域の担い手が減る中で、各課が様々な施策や行事、委員等の依頼を地域にそれぞれ行っている現状の見直し

今後の地域づくりの方向性

6 目指すべき方向性

- (1) 日々の暮らしの安全・安心が維持される地域づくり
- (2) 高齢化や人口減少を見据えた地域の身の丈に合った暮らしやすい地域づくり
- (3) 人を育てることができる地域づくり
- (4) 若い世代や子どもたちが希望や誇りを持てる地域づくり
- (5) 地域同士での助け合いや各種団体や企業などと連携した地域づくり

25

今後の地域づくりの方向性

7 具体的な取組

- (1) 日々の暮らしの安全・安心が維持される地域づくり
- (2) 高齢化や人口減少を見据えた地域の身の丈に合った暮らしやすい地域づくり
- (3) 人を育てることができる地域づくり
- (4) 若い世代や子どもたちが希望や誇りを持てる地域づくり
- (5) 地域同士での助け合いや各種団体や企業などと連携した地域づくり



行政がどこまでやるのか示すべき

- ① 財政状況や行政施策の方向性について住民に丁寧に説明をする
- ② 地域づくりへの支援の仕組みの構築を行う

26

今後の地域づくりの方向性

7 具体的な取組

(1) 日々の暮らしの安全・安心が維持される地域づくり

① 役場の取組み

- 地域が主体的に取り組むを行うためには、行政側の行動が必要
- ⇒ 行事の見直しや負担軽減について早急な取組みが求められる
- 将来的な財政状況の予測や行政サービスの方向性について説明を行う

② 地域の取組み

- 自治会や自治会役員のみでなく、より多くの地域住民と話し合いを行う環境整備

27

今後の地域づくりの方向性

地 域	
行 政	<ul style="list-style-type: none">➤ 不要な行事や委員、団体等の見直しを早急に進める➤ 今後の財政状況や行政サービスの将来的な変化の可能性について説明する➤ 庁内横断的な地域づくりの支援体制、検討体制を構築する

地 域	地域の現状や課題について、より多くの地域住民で話し合う機会を設ける
行 政	<ul style="list-style-type: none">➤ 各課等で実施する行政施策について、地域の現状や課題等を踏まえて見直す➤ 地域の現状や課題に併せて、地域が主体的に取り組むための仕組みや支援体制を検討する➤ 地域課題の解決に向けて、各種団体や企業への情報提供を行う

地 域	優先的に取り組むべき課題に対し、具体的な取組み方法を検討する
行 政	<ul style="list-style-type: none">➤ 地域が主体的に取り組むための仕組みや支援体制を整備する➤ 他地域や各種団体、企業との連携について話し合いの場を設ける

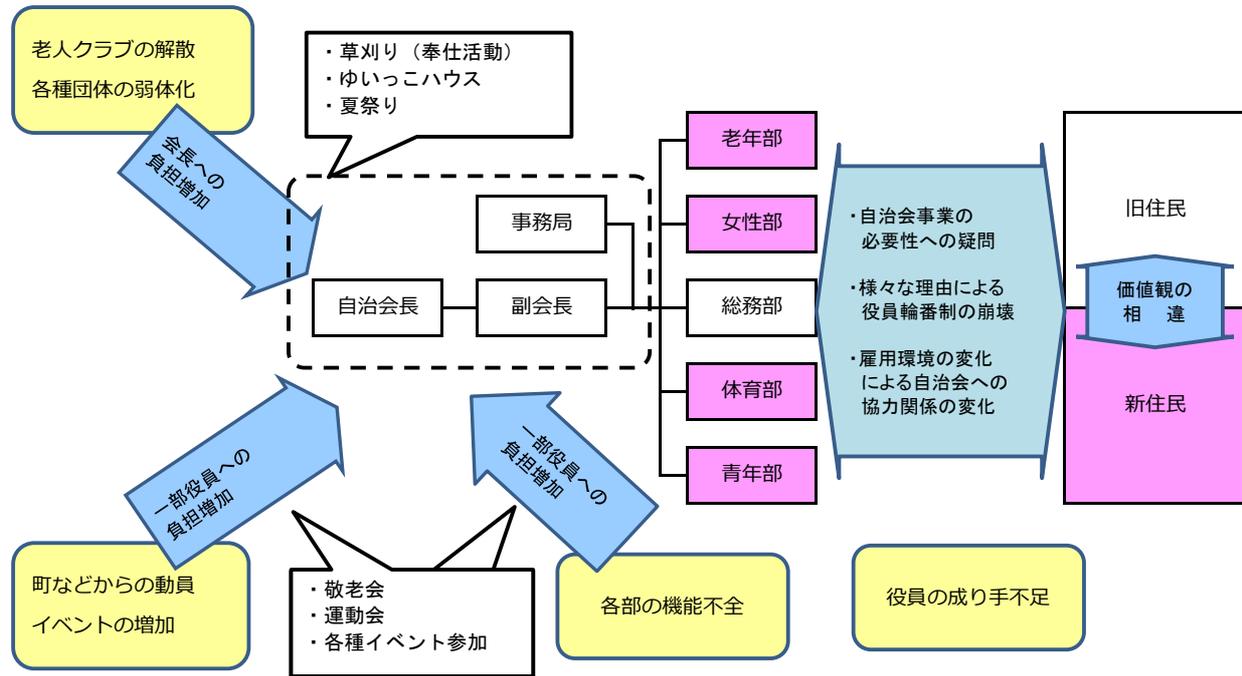
地 域	中期的な計画を策定し、徐々に取組みを進める
行 政	地域の中期的な計画に対して、継続的に支援できる仕組みを作り、PDCAサイクルが回るように、行政側も中期的な計画の中で常に見直しを行う

28

今後の地域づくりの方向性

7 具体的な取組

(2) 高齢化や人口減少を見据えた地域の身の丈に合った暮らしやすい地域づくり



29

今後の地域づくりの方向性

7 具体的な取組

(3) 人を育てることができる地域づくり

① 役場の取り組み

➢ 地域課題に対応した学習機会や参加者が学習から実践へとつなげることができる事業等の実施

② 地域の取り組み

➢ 「若い世代に任せる」という地域風土の醸成

(4) 若い世代や子どもたちが希望や誇りを持てる地域づくり

① 役場の取り組み

➢ 役場や各種団体、企業と地域が連携して地域に関わる機会や学習機会等を設ける
➢ 金ヶ崎町での学びが生きる環境、自己実現できる環境を整備する

② 地域の取り組み

➢ 家庭や地域の方が、地域に対する愛着や誇りを持つ

30

7 具体的な取組

(5) 地域同士での助け合いや各種団体や企業などと連携した地域づくり

① 役場の取組み

- これまでの平等な制度設計から公平な制度設計への見直しを進める
- 各種団体の課題の把握などを行い、持続可能な活動ができる支援をする

② 地域の取組み

- 具体的な地域活動や役割について、他の地域との連携について話し合いを行う
- 自治会だけで行うという意識から、外とのつながりや最新技術の導入などを受け入れることができる地域風土を醸成する